

ムリガンデ駐日ルワンダ大使，御列席の皆様，

本日は，お招き頂き，まことにありがとうございます。日本政府を代表してこの場でお話しできますことを光栄に思います。

20年前，ルワンダで，100日間の間に約100万人の人々が命を奪われました。また，その際に何百万人もの人々が難民として国外に逃れ，苦しい生活を送ることになりました。これは，人類が忘れられない，忘れてはいけない悲劇です。

同時に，過去を乗り越えてより良い未来を自分たちの力で作っていかうとすることこそが，平和と希望への道筋です。ルワンダは，その努力をこの20年間重ねてきたと理解しています。

過去の悲劇を思い起こすだけでは，憎しみを引きずることにつながりかねません。それはまた，新たな悲劇の種を後世に残すことになります。若い世代には，民族や宗教などの対立を乗り越えた社会を作っていただきたい。日本は，ルワンダの首都キガリにあるジェノサイド記念館の拡張事業に協力しています。これは，そうした願いを込めた協力なのです。

私は，ルワンダがジェノサイドの後に定めた憲法に勇気づけられました。そこには，民族や地域による分断を根絶し，国民の一体性を促進する，とうたわれています。私は，ルワンダがこの精神に基づき，国作りをますます進めることを願っています。

また，現在，ルワンダは，7つの国連平和維持活動に4，802名の要員を送っています。これは世界の中でも7位という貢献度です。この数字は，ルワンダこそが紛争を乗り越え，平

和を支える国になろうとのルワンダの決意を示すものの一つと
考えています。日本としても、国際協調主義に基づく積極的平
和主義の下、アフリカのみならず、世界の平和と安定にこれま
で以上に積極的に貢献していく考えです。

苦しみを乗り越えてきたというルワンダの人々の経験は、実
際日本の人々に励ましを与えるものでもあります。東日本大震
災から3年を迎えた先月11日、被災者を慰め、元気づけるた
め、福島県でコンサートを行ってくれたルワンダ人の音楽家が
います。この方、ジャン＝ポール・サンプトゥさんは、両親と
兄弟を自分の幼なじみに殺され、悲しみのあまり音楽活動を続
けることができなくなってしまったそうです。しかし、自分の
中で「赦しなさい」という言葉が何度も聞こえ、「赦す」こと
により絶望的な状況から立ち直ることができたのだそうです。サ
ンプトゥさんは、今も仮設住宅に暮らす被災者の方々にこの自
分の経験を披露して、「だから皆さんもあきらめないでくださ
い」と勇気づけました。

今日、ルワンダは、「アフリカの奇跡」とも呼ばれる高い経済
成長率を維持し、さらに世界の平和に積極的に貢献しています。
ルワンダがこの20年に困難を乗り越え、堅実に国造りに取り
組んできたことを、私は心から喜びたいと思います。同時に、
今日の式典にあたり、ジェノサイドが二度と起こらない世界を
作るために、ルワンダには大きな役割があることを改めて覚え
ます。その役割に取り組み、世界に平和を訴えていく、そのル
ワンダの決意に日本は賛同します。

御清聴ありがとうございました。

(了)